

平成29年度第5回安城市地域ケア推進会議及び安城市医療・介護・福祉ネットワーク協議会

日時 平成29年8月17日（木）

午後1時30分～午後3時

場所 社会福祉会館 3階 会議室

1 会長あいさつ

今日も暑い中、また盆休み中のところもあるかと思いますが、皆さんお集まりいただきありがとうございます。今日も引き続き活発な討論をお願いします。

2 議題

(1) 地域包括ケア協議会の報告（資料1）

（事務局）8月10日に開催した安城市介護保険運営協議会、安城市地域包括支援センター運営協議会、及び安城市地域包括ケア協議会で地域包括ケアの29年度の計画について報告したものを、3月に承認を得たものについて具体的に示したものを提示した。

〔補足説明〕

- 1（1）①各町内福祉委員会で行われている見守り活動の効果的な継続を図るため、見守り対象者や活動内容の見直しなど23項目のチェックリストを社会福祉協議会が作成し活用している。
- ②今年度の見守り推進地区が活動を開始することで、市内すべての地区で住民による見守り活動をしていくことになる。
- （2）①生活支援コーディネーターが担当地区内において小売店等を回り、事業への協力を働きかける。
- ④は②、③の活動を経済的に支援する補助金制度。申請する団体は徐々に多くなっているが、訪問活動や、要支援者向けの活動は皆無に等しい状況。生活支援コーディネーターと協力して、活用の促進を図っていく。
- ⑤今年度から開始した事業。理学療法士、作業療法士などがサロン等の場に出向き、活動の担い手を対象に簡単な介助の方法や活動の環境についての指導、助言を行うもの。愛知県理学療法士会に委託し、各中学校区で展開していく。
- （3）、（4）各地域包括支援センターが開催する。地域ケア地区会議で検討した課題の解決策について、内容に応じて、生活支援コーディネーターによる生活支援ネットワーク会議や地域ケア推進会議に提案される。

2 資料のとおり

- 3（3）②平成27年度から安城市医師会に在宅医療サポートセンターが開設され、多くの相談や在宅医療の推進に向けた取組が展開されている。平成30年度からは、現行の在宅医療サポートセンターの機能を含めて安城市が在宅医療・介護連携推進事業として展開する。関係者で内容や実施方法を検討している。

- (4) ②認知症カフェを新たに始めたいという声を聞く。地域住民、専門職、地域包括支援センター、生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員である高齢福祉課の職員が協力して、新たな認知症カフェの開設に取り組んでいる。
- ③模擬訓練の実施について、表に追記依頼。安祥地区で8月12日に古井新町子ども会夏祭りにて実施。
- ④行方不明者を早期に発見するためのシステム。より多くの人にこの制度を知ってもらうことが重要。地域ケア推進会議で在宅医療に関する啓発方法を検討した際に、寸劇による周知の提案があった。9月30日の認知症を知る講演会で寸劇を行うことを地域包括ケア協議会で周知した。
- ⑤認知症を理解してもらうための認知症サポーター養成研修を平成18年度から継続し、平成28年度末までに約9,500人のサポーターを養成した。今年度は認知症サポーターが活躍できるようにステップアップ講座を開催し、活動の機会を創出できるように進めていく。
- (5) 高齢者が家に閉じこもらないように地域で高齢者が活躍できる場所、参加できる場所を多くするとともに、それらの活動がより活発になるように支援していく。
- (6) 地域共生社会に向けて進めていく。

以上の報告で出た質問に対し、1(1)の社協が作成したチェックリストを提示し、今年の見守り推進地区の東町、姫小川、栄町の3福祉委員会を紹介した。

提案として、地域包括支援センターから出た方向性、地区の課題、方策等いろいろあるが、それぞれきちんと整理をして、共通したテーマは何なのか、課題が何なのか、それに基づいてどうやっていくのかを整理した形で提示されるとよいという意見があった。

地域共生社会に向けて、子供についてどのような予定かという質問があった。障害者を進めつつ、子どもについても少しずつ視野に入れていくと答えた。

〔意見・質問〕なし

(2) 在宅医療推進について

1) 地域包括ケア市民フォーラムアンケート結果(資料2-1)

(事務局)安城市では在宅医療を知ってもらうために、平成26年から市民フォーラムを開催している。昨年までは在宅医療に力を入れている医師を、今年は終活ジャーナリストを講師に招いた。来場者に対してアンケートを実施、回答率は約60%、「人生の最期をどこで迎えたいか」をアンケートしているのでその集計を報告する。

〔補足説明〕

- ・回答者の年齢層は50歳以上が大部分を占め、今年は特に若い人の比率が低い。
- ・今年は地域住民の占める割合が高い。
- ・「人生の最期をどこで迎えたいか」について、今年は自宅を選ぶ人の比率が低い。
- ・地域住民を年齢別にみたところ、年齢層があがるにつれて「自宅」を選ぶ人の比率が低い。

(会長) 年々、来場者数が増えている。今年は爆発的。演者が有名だったことも影響していることが考えられる。来年も同じように増えるかどうかは見てみないとわからない。年齢が高くなるにつれて、自宅で最期まで過ごしたいという方が減っていくのはどこかの報告、アンケートでも同じような傾向。若い時は自宅で過ごしたいという理想を持っていても、現実が目の前に来ると家族に迷惑が掛けられない、嫁の世話にはなりたくないとか、施設や病院という選択肢が広がってくる。全体では半数が自宅で最期までという結果は全国的な傾向と同じような結果だったと思うが、何か質問、コメントはありますか。

〔意見〕

(リハネット部会) 「人生の最期」で今回、「自宅」の比率が減っていることについて、回答者の男女比が今までと比べて女性が増えていることが影響していないか。お嫁さんだったり、娘さんだったり介護を担う女性の在宅医療への不安感が出ているのでは。男女比の影響を調べると、今後在宅医療を広げるにあたって、女性をターゲットにすることが重要という根拠になると思うが如何か。

⇒アンケートを集計していて、女性の意見として、家族は自宅で、自分は病院、施設という回答があった。男性・女性の意見で差があるかについて傾向を整理する。

(地域支援部会) アンケートの回収にあたって、回収率を上げるための会場での工夫をされるともっと良い結果に結びつくのではないか。アンケートを書く時間をとるなど司会から案内するのがどうか。

⇒今後の開催に向けて検討する。

2) 在宅医療・介護連携推進のための研修会アンケート結果 (資料2-2)

(事務局) 昨年度まで、研修会の結果をみんなで共有する機会がなかった。どのように共有していったらよいかを意見交換したい。反対意見がなければ、アンケート結果を推進会議に出していきたい。次年度の研修の企画をするにあたって参考になると思う。

〔意見〕

(施設部会) アンケート集計に特に負担感はなかった。ほかの研修会にどんな方が参加したのか、どういった意見を持ったかを共有できるのは良いと思う。

アンガーマネジメント研修について、アンケート意見からも怒りのコントロールに役立っているとおもわれ、プラスになる研修効果があったと思う。

(サポートセンター) エンドオブライフ・ケア研修会はロールプレイを中心に行う内容だったので、参加者定員を30名に絞った。応募は70余名あり、2回目を開催することになった。時間が長丁場の研修会だったが、アンケートでは長さを感じなかった、継続的にやってほしいという意見があった。アンケート集計については、人数が少ないこともあり比較的簡単に出来た。次回の開催の参考になる。他の部会の結果も出してもらえると、参考になるのでよいと思う。

⇒研修会が終わったら各部会からアンケート結果を報告し、みんなで共有する。

(3) サルビー見守りネットについて (資料3)

1) 市外事業者の利用者登録について (資料3-1)

(事務局) 在宅療養をしている安城市民が岡崎市の施設を利用しており、その事業所から登録の希望があった。市内で利用登録をしているデイサービス事業所の系列のデイサービス事業所。

⇒挙手多数にて承認

2) ポータルサイトの「様式」ページ新設について (資料3-1、2)

(事務局) 掲載イメージ、ルールは資料のとおり。これを機に、未登録の人もサルビー見守りネットに触れる機会が増えることを期待している。

[質問] 様式掲載について依頼があったのか

⇒地域包括支援センターから居宅介護支援事業所向けの様式の掲載依頼があった。

今後も依頼があることを見据え、掲載場所、ルールを検討した。

[意見] 検索機能をつけることが出来るのか

⇒掲載数が増えて見辛くなったら検討するが当面は羅列する。

⇒挙手多数にて承認

3) サルビー見守りネット活用に関するアンケートについて (資料3-3)

(事務局) 10月14日開催の研修会の準備に当たってケアマネ・包括が活用についての意見をまとめたが、他のサービス事業所がどのような意見を持っているかを知りたいという意見が出たことをきっかけでアンケートを実施することにしたので報告する。事務局からサービス事業所にFAXで用紙を送信する。

[意見]

(ケアマネット部会) ケアマネ、包括ネットで意見交換したときに、登録していない事業所が多く、他の職種での実情を知りたいと思った。ケアマネの中でも「使っていてよ

かった」という意見が沢山出なかったのが、逆にこれが現実かと思った。他の部会にも聞くことでいろいろな情報が吸い上げられると思う。

⇒アンケートへの協力と研修会にも是非ご参加を。

連絡事項

- ・八千代病院祭の案内
- ・あんジョイ生活サポーター養成研修の案内
- ・認知症を知る講演会の案内
- ・在宅医療・介護連携推進のための研修会

①テーマ：「地域包括ケアシステムにおける社会参加を重視したリハビリテーション」

日時：平成29年8月24日（木）午後7時から

場所：アンフォーレ ホール

講師：竹田 徳則 氏（星城大学 リハビリテーション学部教授）

②テーマ：虐待についての勉強会

日時：平成29年8月30日（水）午後7時から

場所：市民会館大会議室

講師：和田 行男 氏

③テーマ：在宅服薬支援における多職種連携

日時：平成29年9月7日（木）午後6時30分から

場所：市民会館 視聴覚室

講師：服部 宏明 氏（あおい薬局）



次回 平成29年9月21日（木）午後1時30分～3時 社会福社会館3階 会議室